シリーズ掲載

言語活動の充実に向けたはじめの一歩

「学びがいのある魅力的な学習課題づくり」Vol. 8

～風呂敷の秘密をさぐれ～

《小学校４年「古い道具と昔のくらし」～伝統文化の視点から～》

中学年では、古い道具の使い方を調べ、その変遷と人々の暮らしの変化を学習します。

そこで、今回は、日本の「伝統文化」という視点から、江戸時代に、庶民の暮らしに急速に広まった「風呂敷」を教材化した実践を紹介します。

風呂敷は、先人の知恵により生み出されて長く愛用され、今、改めて見直されています。風呂敷を教材化するメリットは、次の通りです。

《風呂敷を教材化するメリット》

「日本人の知恵が生んだ合理的な道具であり、日本の生活文化が息づいていること」

日本の暮らしの文化には、何でも包めて何回でも使えるラッピングツールとして、「風呂敷」があります。使う際には大きく使え、使用後は小さくたためます。風呂敷は、日本人の知恵が生んだ合理的グッズであり、〝心を込めて包む〟という日本の暮らしの伝統的な風習や文化を学べます。

「日本人の知恵が生んだエコな道具であること」

数年前まで、日本人は、大量のレジ袋を使っていました。わが国の年間のレジ袋の使用量は、多い年で 300 億枚を越えたそうです。乳幼児を除いた国民１人当たりに換算すると、約 300 枚／年間の使用量になります。このレジ袋の消費量を原油に換算すると５億６千万リットルになるそうです。これは、わが国の年間原油総輸入量の 0.23%に相当します。一方の風呂敷は、何回も使うことができ、環境に優しいエコな道具であることを学べます。

「古くから使われ、今も使われ続けている道具であること」

風呂敷は、室町時代に大名たちが風呂に入るときに、家紋の付いた布で自分の衣類を包んで他人のものと間違えないようにしたり、風呂から上がった時、敷いたその布の上で見繕いをしたりしていたのが始まりだそうです。

その後、江戸時代になり銭湯の普及とともに庶民にも普及し、「風呂敷」と呼ばれるようになりました。

【お洒落なソファカバーとして】

最近は、使っている人を目にすることも少なくなりましたが、現在も、贈答品や重箱等を包んだり、お洒落なファッションアイテムとして、スカーフや膝掛け、テーブルクロスなどにも活用されたりしています。このように、風呂敷は、今も使われ続けていることから、そのよさを追究させることができる道具です。

「手軽に体験することができ、よさを体感することができる道具であること」

風呂敷を使って、実際に様々な包み方を手軽に体験させることができ、体験を通して、その合理性や便利さなど、道具としてのよさを味わわせることができます。

《風呂敷を教材化した授業の実際》

まず、子どもたちに、実物の風呂敷をいくつか見せ、風呂敷について知っていることや体験したことなどを発表させます。「おばあちゃんが使っていた」、「テレビの時代劇で見た」など様々な声が聞かれるでしょう。子どもたちの興味・関心が高まったところで、なぜ、風呂敷と言う名前が付いたのかを考えさせ、風呂敷の歴史に関心を向けさせます。

そして、

「風呂敷は、いつから、誰が、どのように使っていたのでしょう」

と問い、子どもたちに予想させた後、風呂敷の歴史について説明します。

風呂敷の歴史について（板書の一部）

風呂敷を使っている人々の様子を表す絵や写真を示しながら説明することにより、子どもたちは、風呂敷の歴史について理解しやすくなります。

次に、講師（祖父母等）に、風呂敷の様々な包み方について、説明をしながら実演してもらいます。その後、子どもたちに、瓶包み、西瓜包みなど、風呂敷を使って、実際に様々な包み方を体験してもらいます。

子どもたちは、体験を通して、どんな形の物でも包むことができる風呂敷のよさを実感することでしょう。

一升瓶も包めるなんて、風呂敷ってスゴイ！！

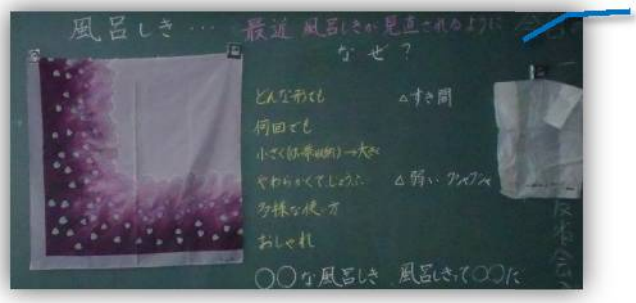
【講師から瓶包みのやり方を学ぶ】

体験後、現在も様々な用途で風呂敷が使われている事例を紹介します。そして、

「最近、風呂敷が見直されるようになったのはなぜだろう」

という学習課題を設定し、追究していきます。

ここでは、風呂敷とレジ袋との比較を通して、それぞれの特徴を明らかにしていきます。この比較を通して、風呂敷という道具が持つ利便性とともに、リサイクルが進んでいた江戸時代の生活様式にも触れ、環境面にも配慮する日本人のものの考え方や生き方について捉えられるようにします。



風呂敷とレジ袋の比較（板書の一部）

他の事象と対比しながら観察させたり考えさせたりすることで、それぞれの事象の特徴や特色が、より明らかになります。

★まとめ★

『小学校学習指導要領解説　社会編』には、第３学年及び第４学年「ア　古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていた頃の暮らしの様子」の指導配慮事項として、次のことが記されています。

「実際の指導に当たっては、社会科を学習する児童にとって初めての歴史的な内容であることに配慮し、見学や体験を取り入れるなど、学習が具体的に展開できるようにする必要がある。例えば、地域の博物館や郷土資料館などにある昔の道具を観察したり、高齢者や父母からかつて生活に使用していた道具の使い方を教わり体験したりする活動が考えられる。これらの学習を通して、過去の生活における人々の知恵や工夫に気付いたり・・・（後半省略）」

今回は、風呂敷を教材化しましたが、ほかにも、七輪を使って餅を焼いてみるなど様々な道具の教材化が考えられます。何を教材化するに当たっても、体験活動を効果的に取り入れて、上記の事柄に十分配慮した指導を行うことが大切です。

また、伝統文化に関して、指導要領では、総則、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間のそれぞれの中で取り上げられています。したがって、伝統文化に関する学習機会をどう設定していくかを具体的に考えていく必要があります。

今回紹介した風呂敷の教材化には、伝統文化という学習の視点が含まれています。今後、社会科の教材化を図る際には、ぜひ「伝統文化」という視点にも着目してください。